

草加市公共施設に関する市民ワークショップ かわら版

発行：草加市総合政策部資産活用課 /2016 年 10 月 /第 1 号

- 今後、少子高齢化が進行し、超高齢社会・人口減少社会の到来が現実のものとなろうとしている現在、草加市でも公共施設をどのように保有し、維持管理していくのか、また、公共施設を利用してどのような公共サービスを提供していくのかを考える必要性に迫られています。
- こうした状況のなか、昨年度、役所内部で検討を重ね「草加市公共施設等総合管理計画」を策定しています。今年度は計画に市民の方からの視点を加え、内容を充実していくため、地区ごとに3回の市民ワークショップを開催します。

第 1 回市民ワークショップを開催しました。

多くの方にご参加いただき、活発な意見交換が行われました。

- 第 1 回ワークショップでは、昨年度、行政側の視点で作成した「草加市公共施設等総合管理計画」で位置づけた公共施設の維持管理に向けた6つの方針について話し合いました。
- 地区ごとの第 1 回ワークショップの参加者は以下のとおりです。

日時	場所	対象地区	参加者数
9/14 (水) 19～21 時	川柳文化センター	新田東部	43 人
		草加川柳	
		草加稻荷	
9/15 (木) 19～21 時	勤労福祉会館	新田西部	18 人
		草加安行	
9/26 (月) 19～21 時	瀬崎コミュニティセンター	草加東部	22 人
		谷塚東部	
9/29 (木) 19～21 時	谷塚文化センター	草加西部	21 人
		谷塚西部	
		谷塚中央	



第 1 回市民ワークショップではこんなことを話し合いました。

- 第 1 回ワークショップでは、草加市の人口や世帯、財政などの将来推計、公共施設の状況、公共施設に関する市民アンケートの結果などについて説明した後、6つの方針について「良い点」と「追加・改善したい点」について話し合いを行いました。

①公共施設の保有総量の適正化

あまり使われていない施設は積極的に集約・複合化や廃止を進め、市の公共施設保有総量を適正にします。

②新たな公共施設の建設は既存施設のスクラップ & ビルドを条件

公共施設の保有総量を適正にするため、新しい公共施設をつくる場合には、同じような施設を複数廃止し、新しく建設する施設に集約することを条件。

③公共サービス内容の吟味と民間サービスの活用

行政が行うべき公共サービスと民間等にゆだねるべきサービスを仕分けして、さらなる官民連携を検討します。また、施設の利用料についても見直し、市民の負担を公平にします。

④「1 施設・1 機能」の縦割型サービスからの脱却

ひとつの施設に複数の機能を盛り込む「1 施設・多機能」化を積極的に進めることで、施設を合理的に利用できるようにするとともに、機能どうしの連携などにより公共サービスの質を向上させます。

⑤フルセット配置から地域特性に応じた配置へ

10 のコミュニティブロックでまったく同じように公共施設を配置する「フルセット配置」はもはや困難。地区のニーズを踏まえて必要な機能を誘導し、地区にとって使いやすい地区拠点の形成を目指します。

⑥「長寿命化」の推進によるコスト削減

施設の建替えや大規模な改修に係る費用をできるだけ少なくするため、計画的に補修を行い、安全性を確保しながら、できるだけ長く建物を使い続ける「長寿命化」を進めます。

※当日配布した資料は市ホームページの以下のアドレスにありますのでご興味のある方はぜひご覧ください。
<https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1211/a03/a01/>

「良い点」では方針④の施設の多機能化による便利さの向上などへの期待が大きい

- 6つの方針の「良い点」については、特に方針④で、学校施設を中心に様々な機能を集約することで、施設の使い勝手が良くなったり、多世代交流が進んだりすることへの期待が多くなっています。
- 方針③については、民間活力を導入することで公共施設を使ってお金を稼ぐことができるという賛成の意見も出ています。

■良い点に関する主な意見

方針①	●人口減少が明らかなので適正化は進めるべき ●維持管理費を削減するために適正化は必要	方針④	●機能がまとまっていると利便性が高まる ●空き教室の利用による年齢を超えた交流が可能 ●学校の中に様々な機能をまとめるべき ●多機能化することでにぎわいが創出される
方針②	●施設の「質」を上げるためであれば、スクラップ&ビルドは賛成	方針⑤	●フルセット配置はいらない、地域の特性に応じた配置にすべき
方針③	●民間資金を活用した施設づくりが期待できる ●開館時間やサービスなどの向上が期待できる ●財源確保のために利用者の負担を増やすべき ●利用料が安すぎると本当に必要な人が使えない恐れがある。利用料を適正に	方針⑥	●施設に愛着を持つことで長く使う ●長寿命化する施設としない施設を見極めることが必要

「追加・改善」については施設が集約された時の移動条件の悪化に対する懸念が多い

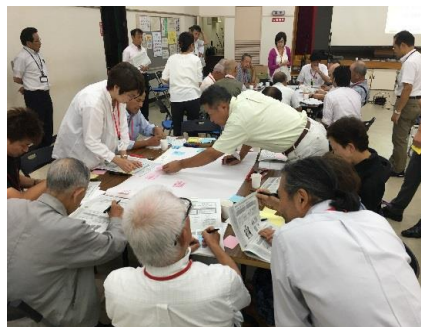
- 「追加や改善が必要だと思う点」に関する意見では、施設が集約された場合、施設までの距離が遠くなり、利用しにくくなることなどへの懸念が多く出されました。
- 方針①の公共施設の保有量の適正化に関して、「適正」な量をどう判断するのか、方針④の多機能化に関しては、学校に機能を集約した場合の安全性の確保に対する懸念があること、方針⑤に関して、地区のニーズをどう把握するのか、各地区のニーズに大きな違いはないのではという意見もありました。

■追加や改善が必要だと思う点に関する主な意見

方針①	●量の適正化は何を基準に適正化するのか ●ムダな施設を決めるのは難しい ●広域的な施設と地域単位の施設に分けて考えるべき	方針④	●学校に機能が集約されることによる児童・生徒の活動の制約や安全性の低下の懸念 ●多機能化により専門性が失われ、使いにくくなる恐れがある
方針②	●施設が遠くなることで交通の便が悪化する。移動への配慮が必要。 ●高齢者の利用が厳しくなるのでは	方針⑤	●地域間の施設格差の拡大 ●地域ニーズの把握方法をどうするのか ●身近な場所に気軽に集まれる場も必要。コミュニティの維持・向上に役立つ
方針③	●民間が運営することでサービスの低下が心配 ●民間では事故等の際の責任の所在などに不安 ●利用料が上がることで使いたい人が使えなくなる恐れがある。	方針⑥	●計画的な修繕の予算が確保できるのか ●長寿命化するコストとランニングコストのバランスを考える必要がある。

その他にこんな意見もありました。

- 財源が足りないなら、人口増加や企業誘致などに取り組み、税収を増やす方策を考えるべきではないか。
- コミュニティを維持・向上させるために施設のあり方を検討すべきではないか。
- コミュニティ施設などの運用の裁量権をもっと住民に委譲してほしい。
- 費用をかけずに施設を運用していくことについては住民でも考えていきたい。
- 行政ができないことを市民にもっと伝えてくれれば、住民でも自助・共助を考える。



※当日の会議で出された全意見をまとめた資料が市ホームページの以下のアドレスにあります。ご興味のある方はぜひご覧ください。
<https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1211/a03/a01/>